

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 219

2023・5・31

象潟や 雨に^{せいし}西施が ねぶの花

ー芭蕉「奥の細道」よりー

緑にあふれた五月から

雨にけふる六月へ

時が移ろっていきます。

マスクを外して

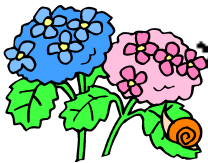
夏に向かう空気を

深呼吸！

○ CONTENTS ○

PAGE

☆ TOTOMO25 周年記念連続講座が始まりました！	…1
☆ 連続講座第1回（講師：森下芳則さん）参加報告	…2
☆ 連続講座第2回（講師：太田剛さん）参加報告	…3
☆ 市史編さん事業、その後はどうなってるの？/新規採用情報	…4
☆ 旧図書館式典・内覧会報告	…5
☆ 『鎌倉 花和尚独語』著者大下一真さんを囲んで／出前講座	…6
☆ 松坡先生をめぐる人々12 春田源之丞・時子 袴田潤一	…7
☆ 図書館協議会傍聴報告	…8
☆ 映画と本と図書館と42 田邊恵美 /銀幕情報	…9
☆ F☆L実行委員会報告/ユニーフ見学とお手伝いの報告	…10
☆ ボラ協報告・協働部会報告/活動日誌	…11
☆ 事務局から	…12



TOTOMO25 周年記念連続講座が始まりました！

前号でご案内したとおり、当会では「これからの鎌倉の図書館にのぞむこと」をメインテーマに、4月10日より連続講座を開始しました。現在2回を終えたところです。緊急に開催を決めたため、広報が後手になってしまい申し訳ありません。発足25周年記念事業として、改めて「公共図書館の存在意義を確認し、共有し、これからの図書館を構想する」一年にしたいと一同張り切って取り組んでいます。

その背景には、深沢への本庁舎移転と市庁舎現在地の利活用に伴い、深沢図書館や中央図書館がそれぞれの庁舎にリニューアル移転するとの基本構想や基本計画の存在があります。

一方で、「鎌倉市役所の位置を定める条例の一部を改正する条例案」（鎌倉市役所移転に関する条例のこと）は市議会で否決されています。当会には、本庁舎移転に賛成の会員も反対の会員もいます。したがって本庁舎移転について団体としての意見表明はしていません。しかし、策定段階で市民意見が十分聴取されていないという点については一致しています。構想や計画が練られた過程ではワークショップやオンライン会議等が行われましたが、COVID-19の影響もあってか参加者は少数で、行政と市民の間で十分な意見交換がされていないと考えます。また、パブリックコメントが募集された際には当会会員も積極的に意見発信しましたが、残念ながら聞いて終わりの感がぬぐえず、結果的に改善されたという手応えはありませんでした。

私たちは、鎌倉市図書館の素晴らしいところをたくさん見聞きしていますが、改善すべき点もまた少なくないと感じています。だからこそ、先人たちが積み上げてくれた歴史ある図書館を引き継ぎ、少しでも良い図書館にして未来へ手渡していくために、行政にお任せするだけでなく市民として責任をもって取り組んでいく所存です。本庁舎移転の有無にかかわらず、移転問題によって市全体で図書館が見直されている今だからこそ、鎌倉にふさわしい図書館の在り方を、市民、職員、関係者らでともに学び、考え、話し合う時間を持つために、引続き連続講座を展開していきます。

一人でも多くの皆さまと、これからの鎌倉の図書館の姿について語りあえますようお願いしています。

連続講座第1回 これからの鎌倉の図書館を考える 参加報告
講師：森下芳則さん（元愛知県田原市図書館長）
（4月10日（月） 於：鎌倉市福祉センター第1・2会議室）

森下さんのお話は、自己紹介のあと、近隣の図書館との数値的な比較をして鎌倉市の図書館の特徴を導き出し、次に図書館の本来の在り方を他都市や海外の図書館を紹介しながら探り、最後に今後目指すべき図書館像を提案するという流れで行われました。

まずサービス数値から浮かび上がる鎌倉市図書館の特徴は、予算、人員、施設などの「インプット」が低い（特に予算が低い）、それに比べ貸出・レファレンス件数などの「アウトプット」は高い（職員体制が優れているからで、予算が増えれば、さらに市民の支持が得られる）。「インプット」に関連して、鎌倉の中央図書館の延べ床面積は2576㎡だが、田原市は人口約6万人でも3972㎡あり、もし鎌倉の中央図書館をリニューアルするなら少なくとも4～5000㎡は確保すべきだ、また明石市の例をあげながら予算を決めるときはまちづくりの重点を定め、それに沿った配分をすべきで一律に○%削減するというような手法はとるべきではないなど、鎌倉市が見習うべき事例が多く紹介されました。

次に、図書館の本来の役割についての話に入り、日野市立図書館の市民アンケートでの「（コロナ下でも）他市に比べて休館が遅かった、市民の生命線の一つと考えていることが伝わった」「本は心の栄養で、だれもが利用できる図書館は人をはぐくむ」などの声が紹介され、吉田右子さんの著書『デンマークのにぎやかな公共図書館』から「何らかの課題を抱えた住民が自らその問題を解決するというセルフヘルプの過程をまるごと引き受けられるのは公共図書館をおいてない」という箇所を引用し、図書館は単に人を集める（賑わいをつくる）ところではないと話されました。

最後に「新しい時代の図書館活動の方向性を考える」として、インターネットでの極端な意見の発信が目立ついま、図書館は「熟議と合意形成のプラットフォーム」となるよう求められており、また図書館利用にハンディキャップがある人を含むマイノリティの「社会的包摂」という課題にも取り組むべきと話されました。図書館のリニューアル移転について考える際にも大いに参考になるお話でした。参加者は31名でした。（和田）

♪ アンケートから ♪

森下さんや町田の石井さんや鎌倉の中野さんのような図書館員さんの存在を知り、知恵をより集め鎌倉の図書館のレベル（資料費問題がトップ!! 少なすぎる!!）を上げていきたいものです。TOTOMO がんばって下さい!!（4/10）

とてもよいお話を伺い元気ができました。質問させていただきましたがそれについてもありがたいお話をいただきました。私自身は司書正規職員の長期的な安定した配置めざしく思っており、それが職場で仕事をするために必要と考えています。思いがけず、トモさんが非正規について温かな目をむけてくださることを知り、ありがたかったです。（4/10）

今後できる中央図書館、深沢図書館に望むことをまとめ提言できるといいですね。規模、資料費、人員サービスなど。（4/10）

今日のお話は今まで知らなかった図書館の力を知ることができました。これを地域の図書館にどう活かしていくか考えていきたいと思いました。（4/18）

図書館を良くするには、読書を楽しむ人を増やす。読書の楽しみ方を啓もうすることも根本として必要だと思いました。（4/18）

図書館の開館構想のみならず複合公共施設の設計のアイデアをいただきました。図書館が市民交流・町づくり・居場所の拠点になる可能性を感じました。
本の流通システムの話は興味深い内容でした。鎌倉の実情はわかりませんが、同様としたら改革の可能性がありました。（4/18）

「ニューヨークの公共図書館」を見て、すごいと思ったが、日本ではムリだと思いました。しかし、今日のお話は、日本各地の図書館の紹介で、可能性を知りました。「だれ一人とり残さない」や「地域共生」「持続可能な社会」を図書館に見出しました。
図書館で地域が変わる！いいですね。

（4/18）

連続講座第2回「図書館で地域が変わる、未来を拓く～図書館と地域のレジリエンス」参加報告
講師：太田 剛さん（図書館と地域をむすぶ協議会代表）
(4月18日(火) 於：中央図書館多目的室)

会場に設置されたスクリーンからにぎやかな声が聞こえてきます。そこには新築された栃木県茂木町の図書館にむかってリレー方式で行われている本の引越し風景が映し出されています。街のおじさんおばさん、ジャージ姿の町長さんや教育長さん、職員さんや子どもたち、書店や福祉施設のスタッフさんから400名の実行委員によって、一冊また一冊と図書館の本が手渡され新しい図書館まで運ばれていきます。みんな楽しく誇らしげな笑顔です。開館後、この実行委員会から図書館友の会が発足して協働が続いているとのこと。

**ポイント① 業者に丸投げせず、職員や住民が力を合わせて一つひとつの作業を自分たちでやること。自
分事の実行による図書館活動や信頼関係の醸成こそ、未来の図書館を育む確かな力となる。**

講演前半では、太田さんが開設に関わり、現在もフォロー中の全国各地の図書館で実施されている「図書館と地域を結ぶ」多彩な活動が紹介されました。図書館の未来を拓く数々のアイディアに吃驚仰天です。例えば、三大秘境の一つである椎葉村の図書館にはコインランドリーがあります！？なぜなら、冬の時期、洗濯物が乾かない谷あいでも暮らす村民にとって、村に望むアンケート調査の1位が「コインランドリー」だったからです。ならば図書館にコインランドリーを設置しよう、待っている間に図書館で過ごしたり本を借りたりできるよ、という発想です。この図書館にはシャワー室もキッチンラボもワークスペースもあり、悪天候で停電した時は助かったと感謝されたとのこと。素晴らしい！

ポイント② 図書館はまず街の声を聴こう。図書館と地域をむすぶ第一歩はそこに在る。老若男女が集う図書館は、あらゆる地域課題を解決できる潜在能力に満ちている！

雲の上の図書館と言われる梶原町図書館建設では、隈研吾さんの設計に200か所以上のダメ出しをしたが全て対応されたことや、「野球界だけでなくこの国の未来のためにも栗山町に絶対に図書館をつくりたいのだ」との栗山監督の熱望の紹介に、お二人の図書館への深い理解を感じ心揺さぶられます。「図書館の本来とは何か？」との質問に対し、太田さんは、「図書館の『未来』は図書館『本来』の土台があればこそ拓けるもの。『図書館の本来』は『図書館法』にすべて書いてある。昭和25年制定時より殆ど変わっていないにも関わらず日本ではいまだにこの法を具現化できていない。故に図書館は欧米に比べて200年遅れていると言われている。例えば、図書館が国会図書館作成の無料のJAPAN/MARCではなく、民間企業作成の高額なMARC（TRC/MARCやトーハン/MARC）を使っているのは世界中で日本だけ。税金の2度払いではないのか？年間8万冊出版されている著作物をすべて購入することはできないのだから、公共図書館の蔵書構築を担う「選書」は図書館の命。だからこそ専門職（技術職）の育成は最重要！ドキドキわくわくする『未来の図書館』を創るためには『本来の図書館』の在り方を見失ってはならないのだ。」と最後まで熱いお話は続いたのです。

ポイント③ 図書館法の具現化を目指す社会(生涯)教育機関である図書館に、MARCも選書も地域課題も人材育成も、まるごと委任する「指定管理者制度」の導入はそぐわない！先人から受け取り、未来の鎌倉人に引き継いでいく図書館、時代とともに発展し、いつまでも愛される図書館にするために、職員も住民も人任せにせず、手間と工夫を惜しまないことが大事！

(阿曾)

*MARCとは：.MACHINE-Readable Cataloging（機械可読目録）の略称。全国書誌データ JAPAN/MARC（国立国会図書館）、TRC MARC（図書館流通センター）、NS-MARC（日販図書館サービス）、OPL MARC（大阪屋）、トーハン MARC（トーハン）、日書連 MARC（日本書店商業組合連合会）などがある。

●市史編さん事業、その後はどうなってるの？●

長年の懸案事項であった市史編さん事業について、当会では先の2月市議会で陳情書を提出、総員の賛成をもって採択されたことは前号で報告しました。その中で、教育文化財部長や中央図書館長から「新たな市史編さんの構想やそのための体制づくりに取り組むに至っていないが、検討すべき段階に来ていると考える。今後市長部局と打ち合わせをしないといけないし、補助執行を受けている教育委員会としても発議していきたい」との意向が示されたことは大変心強いものでした。新年度を迎え、新しい教育文化財部長にご挨拶する機会がありましたので、そこでも早急な対応をお願いしたところです。

例えば、茅ヶ崎市や横須賀市の事例では、新市史編さん事業にあたっては早い段階から詳細な日誌を作成し、それらはすべて紀要の形でまとめられ定期的に公開されています。

市史編さん事業がいつ、どのように始まり、どこが所管し、最終目標に向けた過程のどの段階にあるのか？資料収集のために誰がどこに出張したのか？他自治体の協力を得たり、専門家の知遇を得て助言を頂いたりしている様子も読み取れます。「わが街の歴史」を市民と共有しながら編んでいく良い方法だと思いますし、先行自治体の発行物に目を通すだけでも、市史編さんが一刻も早く始めなければならない時間のかかる並大抵の事業でないことは素人にも明らかです。

現在鎌倉市では、深沢への市庁舎移転や市庁舎現在地利活用の計画について、市民への周知を図り意見聴取が進められています。現計画では双方に図書館移転が組み込まれていますので当会でも強い関心を寄せていますが、「市史編さん事業の体制づくり」にも大きく関わってくる問題とも考えます。総務部が中心になって取り組むにしても、予想される膨大な一次資料をどこにどのように保存・管理するのか？資料の収集・整理・公開などについては図書館の協力が有効と思いますが、本庁舎基本計画の中にそもそも全庁的な取組にふさわしい市史編さん室のスペースは確保されているのでしょうか？また、編さんにあたっては日通書庫センターに保管されているという歴史的公文書の頻繁な閲覧が予想されますが、今後も増え続ける公文書も含めて庁舎のどこに保管していくのか？編さん後は、他自治体にならって市史編纂室を存続すべきと考えますが、それをどこに設けるのか？など、10年先、20年先、50年先を見越した庁舎計画の必要があるのではないのでしょうか？

関係者には至急の打合せに取組み、まずは必要な発議をして頂きたいと強く願わずにはいられません。(阿曾)

WELCOME TO OUR LIBRARY !

～鎌倉市では、今年度30年ぶりに専門技術職である司書職員が新規採用されました～

私たちTOTOMOは、約20年にわたる長い時間をかけて司書職員採用を要望してきました。多くの方々にご協力いただき、署名活動にも賛同をいただきました。そして今年、ついに図書館には2名の新人司書職員さんが！！TOTOMOの願いがやっと叶ったこと、喜びに堪えません。

今年度から鎌倉の図書館に司書として加わるのは、木ノ戸香子さん(35歳)と、藤井文乃さん(22歳)。

新人さんたちは、4月の本庁での研修を終え、現在中央図書館にて司書としてのお仕事を始めています。4月21日付けの地域情報誌「タウンニュース」には、先輩司書職員さんの指導を受けるお二人の様子を伝える記事が写真入りで掲載されています。(タウンニュースは図書館で閲覧できます)

優秀な人材を誇る鎌倉の図書館。その技術を信念を繋いでいっていただきたいと切に思います。

がんばれ、新人さん！

(齊木)

()内は司書資格所有者数 *職員は資料サービスと兼務
**近代史資料研究員/事務補助/歴史的公文書選別等事務職員 2

令和5年度 鎌倉市図書館職員構成

	職員数	会計年度任用職員数
中央図書館		
中央図書館長	1(0)	
総務担当	1(0)	3(0)
資料サービス担当	8(8)	12(12)
近代史資料室担当	*1(1)	**4(0)
腰越図書館	2(2)	4(4)
深沢図書館	3(3)	5(5)
大船図書館	3(3)	4(4)
玉縄図書館	2(2)	5(5)
計	20(18)	37(30)

♪♪♪ 旧図書館式典、内覧会報告 ♪♪♪



放課後子どもひろばおなり おなり子どもの家「こぼと」
(旧鎌倉図書館を修繕・補強・改築。増築部分あり)

3月21日(火・祝)10:00から旧鎌倉図書館の玄関前広場において新しく子どもの家として開館する「放課後かまくらっ子おなり」のオープニングセレモニーが行われ、TOTOMO代表として参列させていただきました。

昭和11年、間島弟彦・間島愛子夫妻の寄付により建設された旧図書館が、3月27日に「放課後かまくらっ子おなり」として開館したのです。敷地内玄関前の庭には間島氏の旌徳碑があります。

式典には市長、教育長、市議会議員、民生委員・児童委員、建築関係の方、民間団体の方々等計34名の参列者(招待客50名)がありました。

旧図書館修復事業には8年の歳月をかけ途中であきらめかけることもありましたがこのような立派な子どもの家ができ、開館することは喜ばしいとの市長のご挨拶がありました。

松尾市長、岩岡教育長のご挨拶の後、参列者の紹介があり、前川議長のご挨拶が続き、その後代表の小学生2名を含め5名によるテープカットが行われました。空は曇っておりましたが、雨になることもなく、無事、式典は15分ほどで閉幕しました。

式典のあと、内覧会が行われました。

内部はきれいに改修され使用できる木材、部品は活用されていました。(上げ下げ窓は一部の窓に使用されていました)

1階に旧図書館の記録としての資料を展示するミニコーナーがつくられていました。中の棚は元書庫の本棚が使われているそうです。また一部図書室も設けられておりました。

2階の畳の部屋の婦人閲覧室は壁が取り払われて板の間が変わっておりました。3階の書庫はなくなり、吹き抜けになっており、小屋組みがみえていました。

新しく、エレベーター、1階の奥にプレイルームが増設され、2階は学童専用のお部屋となるそうです。



プレイルーム

外観は旧図書館を再現するように木材やタイルなど再利用できるものは活用され不足のタイルなどは一部新しく復元されていました。

鎌倉の近代史を象徴する建物として、早急に登録有形文化財として登録されますようお願いしております。

開館おめでとうございます。(水岡)



旧図書館資料コーナー



2階のホールを見学中

『鎌倉 花和尚独語』（冬花社）の著者大下一真さんを囲んで



瑞泉寺

去る2月24日、大下一真瑞泉寺ご住職に、NPOセンター鎌倉までお運びいただき読書会を開きました。著者をお迎えしての読書会は、『民俗選挙のゆくえ』の杉本仁さん以来お二人目です。会員の他に、三浦さんの友人お二人が参加されました。

読書会に先立ち、女性会員4人で瑞泉寺散策。何十年ぶりかの紅葉ガ谷瑞泉寺は、山門下の梅林も咲き始め、山門内には、庭師の姿があり手をかけて育てられた木々も草花も春を迎え、訪れる人をも迎えていました。今に伝える夢窓国師の名園は、発掘される前は左の岩の階段を登り、天園までの散策を度々父と共にした懐かしい記憶が蘇ります。そして、五山に次ぐ名刹を新たにし、再び『鎌倉 花和尚独語』を開いたのです。

本書の「第一章 たしなみ」は、2017年から2年間、読売新聞火曜日夕刊「たしなみ」コーナーに「... マナー」のタイトルで連載され、「第二章

花和尚独語」は2016年から1年間『短歌往来』に連載したエッセイと伺いました。

歌人である大下さんは「歌を詠むのは苦しいが」エッセイは書くのも、読むのも楽しく、そのお手本は山口瞳さん。山口さんの師は、歌人吉野秀雄さんのお話。「曆に向かうマナー」、お寺で伝統を守るとは、の問いへの答えは、深く難しい。知らない事、興味のあることは多々あり、その一つが「床の間のマナー」にある「無事」というお守りのことだった。瑞泉寺の本山円覚寺の朝比奈宗源老師から賜り、大下さんの旅行の無事を祈る老師みずから書かれた「無事」のお守り。12月、茶道では「無事」の語を掛ける習わしがあり、この老師の小さなお守りを軸装にされたお話に心を奪われました。大下さんの日々の一端は、奥様と笑って結ぶ会話がたくさんあるとのお話、心に止めおきたいことです。（曾原糸子）



『鎌倉 花和尚独語』大下一真著
2020年冬花社刊

・・・速報・・・

「新庁舎の整備と市庁舎現在地の利活用」をテーマに出前講座をお願いしました！

5/10、10時～12時に実施した今回の出前講座は、4/15に行われた「公共施設のあさって～深沢のまちづくりにつながるおしゃべり会 テーマ：学ぶことと図書館・学習センターの“あさって”」に参加した際、出席されていた市役所・まちづくり計画部林浩一部長にこの制度を紹介していただき実現したものです。質問項目等、事前確認を丁寧にしていただき、当日は3つの課の職員さんがいらしてくださいました。（市街地整備課：石塚さん・中山さん・若木さん、文化財課：鈴木さん、地域のつながり課：大崎さん、図書館：栗原さん・浅見さん）市民団体としては、NPOセンター：西畑さん・菊田さん、TOTOMO：阿部、黒瀬、齊木、杉崎、古矢、水岡、和田、阿曾が参加し、質疑応答や情報交換、市民提案など実りある対話の時間となりました。詳細は次号でお知らせします。



お詫びと訂正：会報218号の添付資料「市史編纂関連資料」の記載に誤りがありました。

山本正一市長の8代在任期間は昭和33年9月3日～昭和37年8月29日でした。お詫びし、訂正させていただきます。

松坡先生をめぐる人々12 春田源之丞・時子

松坡文庫研究会 代表 袴田潤一

「鎌倉別荘族」と総称される人たちがいます。明治期、とりわけ明治22(1889)年に横須賀線が敷設されて以降、鎌倉に別荘を構えた政財界人や軍人、芸術家をいいます。別荘族は本業を離れて趣味の世界で広く交流を持ったのです。

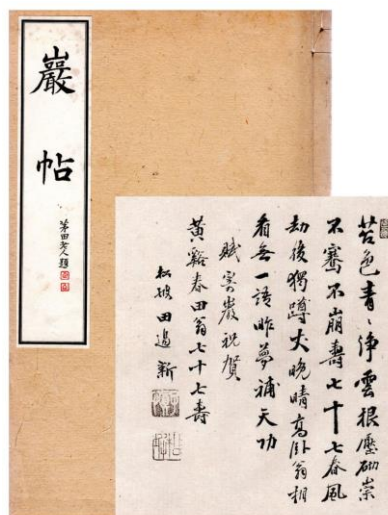
日本郵船会社に勤務し、三井系の共同運輸会社との熾烈な競争に貢献、日清戦役の功により叙勲され、日本郵船会社東京支店長も務めた春田源之丞(1853～1929)もその一人です。いつの頃からかは不詳ですが、源之丞は鎌倉雪ノ下岩窟不動尊近くに別荘を構え、漢詩を松坡先生に、和歌を海上寿子に学びました。黄溪と号して松坡先生が主宰した松社の詩会にも参加しています。

松坡先生の古い友人である藤波千溪(1865～1936 本名 鏑次郎^{しゅうじろう})が当時住んでいた神戸から上京した折に、逗子の上村才六(1866～1946 号は賣劍)を訪ねたエピソードを紹介しましょう。才六が自ら発行した『文字禅』(第11巻第11号 声教社1927.11.1)に詳しく書いています(読み易くするため句読点を打ちました)。

去る二十三日、千溪翁には弊廬を過ぎられ候に付、相迎へて薄酒粗肴に各、襟を披き申候…(中略)…其れより^{はきもの}履^{つら}を聯ねて田邊松披子を鎌倉に^{おとな}訪ひ、談は黄村先生遺稿のことより晚翠吟社當時の物語りに及びて^{こんこん}滾滾盡きず、夜八時を^す過ぐる頃袂を分ち候が翁には其舊知にて同地葛西ヶ谷に閑居を占められある犬塚將軍の許に投宿せられ申候。翌廿四、將軍より来游せよとの電報に接し午下五時同邸に車を驅り候處、主賓千溪翁の外に田邊春田の兩氏も既に座に在り、談は詩より書に及び、書より畫に轉じ、畫より禪に移り、興情風趣いはん方なく加ふるに佳肴美酒の之を助くるあり。夜三更に近き頃漸く辭して各、歸途に就き申候。

文中の「犬塚將軍」は佐賀出身の元海軍少将犬塚助次郎(1871～1947)。紫葛^{しかづ}と号して漢詩をよくし、1926(昭和元)年から鎌倉同人会の理事、1936

年から1946年までは理事長(第4代)も務めています。千溪を迎えて犬塚助次郎、春田源之丞、上村才六、松坡先生が酒杯を傾けながら詩書画、宗教について語りあった様子がわかります。



『巖帖』 表題と松坡先生の詩

春田源之丞と松坡先生の交友を示すもう一つの重要な資料が『^{いわおじょう}巖帖』(1929.6)です。喜寿を迎えた源之丞が親しい知友から寄せられた詩書画を集めて一帖にまとめて印刷に付し、発行したもので

す。漢詩・和歌・画を寄せた者は99名、作品は115点に及びます。題簽とはしがきが阪正臣、跋は松坡先生の手になるものです。勿論、松坡先生は漢詩(「賦寄巖祝賀黄谿春田翁七十七壽」巖の祝賀黄谿春田翁の七十七の寿に賦し寄せる)を贈っています。99名には鎌山同人(連載第2回)13名、松社同人8名、亀廬舎同人は多数含まれています。

源之丞の夫人である時子(1872～? 号は^{りよくひん}緑蘋)も亀廬舎門で和歌を嗜み、海上寿子や松坡先生と文化的活動を共にしました。緑蘋は阪正臣の喜寿祝の書画帖を贈呈した鎌山同人16名の一人でした(鎌山同人16名中、亀廬舎門人は7乃至8名)。緑蘋の海上寿子門下としての立場が窺われます。

大正末から昭和初年の鎌倉の文化を支えたのは漢詩・和歌・絵画を愛好し、その専門家の教えを受け、相互に交流した多くのアマチュアの活動だったのです。

図書館協議会傍聴報告

(2月27日(月) 於：鎌倉市中央図書館)

2月27日に令和4年度第3回図書館協議会が開催され、傍聴しました。昨12月に改選となり、5名の委員のうち市民公募委員1名が替わりました。多くの報告事項がありましたが、ここでは数点に絞って報告します。

1. 定例市議会報告

2月議会では、司書採用の継続に関する質問や、司書が能力を発揮できる体制作りを求める意見等があり、教育長が答弁されました。図書館の運営体制への質問が多くあったことは頼もしく思います。が、今後も司書職員を採用する、という答えはありませんでした。

2月20日の教育福祉常任委員会では中央図書館長から「第4次鎌倉市図書館サービス計画」と「第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画」の取組状況について報告し、委員からは「貴重資料の保存について」「司書の育成が重要」「他市に比べ図書購入費が少ない」などの意見がありました。

またTOTOMOが提出した「鎌倉市制100周年記念事業として『新鎌倉市史』の編さんを求める陳情」について中央図書館長が陳情の要旨、これまでの経緯と現状について行った説明を、この協議会の場でも丁寧に行われました。

2. 図書館での取り組みが報告されました

昨年末、中央図書館と玉縄図書館で「字幕表示システム」の実証実験を行いました。体験者にも好評で、バリアフリーとは障害の有無にかかわらず誰にとっても利用しやすいサービスを展開していくことだと再認識できたということです。

3. 購入予定の錦絵を拝見しました

図書館振興基金活用事業として錦絵『鎌倉右幕下焼香場の図』購入が提案されました。弘化元年(1844年)に歌川貞秀によって描かれたもので、勝長寿院で行われた源頼朝の父義朝の供養の場面を想像して錦絵にしたものです。彩色も美しく、お披露目が楽しみです。

4. 他自治体図書館の視察について

市街地整備課や学習センター等の担当課職員と一緒に先進都市への視察が行われました。須賀川、白河、那須塩原、横浜市会(議会図書館)、武蔵野、大和の6館です。図書館単独館だけでなく複合施設になっている館もあります。これについては6月に開催予定のTOTOMOの連続講座第4回で、今回視察にいらした中央図書館渡邊総務係長から詳しくお話を伺う予定です。

5. 最後に第4次鎌倉市図書館サービス計画の答申が手渡され、閉会しました

パブリックコメント等を受けて修正された計画案をもって第1回協議会での諮問に対する「答申」とされました。本計画および個々の意見とその回答は鎌倉市図書館HPで公開しています。

<https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/associ03.html>

このほか、「第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画」へのパブリックコメントや修正案の説明もありましたが、こちらも鎌倉市図書館HPで公開されていますのでご参照ください。また、ファンタスティック☆ライブラリー111や12月18日に実施した図書館主催の講演会の報告もありましたが、どちらもTOTOMO会報217号、218号に報告記事を掲載していますのでご覧いただけましたら幸いです。

本協議会では多くの報告がありましたが委員からの発言は少なく、物足りなさを覚えました。図書館運営を客観的に考え、協議する大切な会議です。活発な議論が交わされることを願っています。(黒瀬)



第42回

映画と本と図書館と

『君の名は。』（英題：Your Name.）

（2016 年日本制作／監督：新海 誠）

東宝 配給（日本公開 2016 年）

「かまくら銀幕上映会」ナビゲーター 田邊恵美

かつて取り上げた『クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶアッパレ！戦国大合戦』とこの映画に、三つの類似点を発見。

- * アニメ映画である
- * 登場人物がタイムスリップして時空を行き来している
- * その時点の地域史を当てる為に、まず図書館へ行っている

アニメ映画とはいえ、クレヨンしんちゃんは原作者亡き今も地上波で毎週放送されている人気シリーズが 1993 年から年 1 本製作しているテレビのキャラクターを使ったオリジナル長編映画であるのに対し、『君の名は。』は、今や世界的に注目されているアニメーション作家、新海誠の完全オリジナル作品。（現時点で、世界で最もヒットした日本映画）

其々の自治体にある図書館こそが、誰もが行きやすくその土地の歴史を調べるやすがになっていると改めて実感するシーンを、図らずもこのふたつのアニメ映画で見ることができました。

新しい図書館は誰もが使いたいブックカフェのような側面に注目が集まりがちですが、タイムスリップして行った先が図書館のある時代なら、まず調べに行くと現状が確認できますね。

なかなか同時に会えない主人公 2 人が相互に連絡を取り合えるのが iPhone というのはいまどきですが、数寄屋橋の上ですれ違う元祖『君の名は』携帯さえあれば即解決するのにと言われて久しい今でも、出会えない！大変！

今時のアニメ映画は細かい描き込みが実写映画並なのでメカニックにも要注目。モデルとなった土地の聖地巡礼が話題となった作品でもあります。

かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081） 於：鎌倉芸術館小ホール

6/ 5 （月）『スペンサー ダイアナの決意』

6/19（月）『ドリーム・ホース』

7/10（月）『ボイリング・ポイント／沸騰』

◎前売り券：1000 円（当日券：1300 円） ◎上映時間①11:00～ ②14:00～

☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館（0467-48-5500）へお問い合わせください。

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます。



第1回ファンタステック☆ライブラリー112 実行委員会報告

4月27日（木）於：鎌倉市中央図書館多目的室

今年度最初のファンタステック☆ライブラリー実行委員会が、図書館員4名、かまくら女性史の会1名、TOTO MO3名の参加で行われました。

開催場所を中央図書館、開催日を2024年2月4日（日）と5日（月）の二日間と決定しました。

4日（日）は開館日ですので、多目的室での講演会などと展示が中心になります。5日（月）は、休館日を利用して全館での開催とし、館内の見学会やコンサートなど音の出るイベントも可能となります。

各団体の企画は次回の実行委員会までに考えてくることになりました。前回の鎌倉市身体障害者協会とのコラボ企画のような、他の団体との協働の催しも検討します。今までの反省から、広報活動は、チラシを多くのところに配布する、ミニコミ誌への掲載を依頼するなど、力を入れていきます。

次回の実行委員会は、6月22日（木）14時～15時半、中央図書館多目的室にて行います。

TOTOMOからは、阿曾（松坡文庫研究会兼務）・水岡・杉崎が参加しました。

（杉崎）

ユニリーフ見学とお手伝いの報告

見学：3月2日（木） お手伝い：4月6日（木） 5月8日（月）



ユニリーフさんの本棚

昨年のNPOフェスティバルで、「ユニバーサル絵本ライブラリー ユニリーフ」の方と知り合い、ひこうさんのメンバーに絵本を貸し出す際の選書を手伝ってもらえないかという依頼がありました。

ユニバーサル絵本とは「見えない子と見える子が一緒に楽しめる絵本」のことで、市販の絵本を一旦ばらし透明シートに本文を点字で打ち、挟み込んで再製本したもの。ユニリーフさんは、そうして作った絵本を主に視覚障害があり点字を学習している子どもたちに無料で郵送貸し出しをしています。

3月2日にひこうさんメンバー4名（黒瀬・福田・松本・杉崎）で貸し出し作業を見学させていただきました。当日は、ユニリーフの方5名が選書と郵送のための梱包作業をされていました。発送先は、幼児から高校生まで35名ほど。その一人ひとりに合った絵本を5冊ずつ袋に入れていました。選書はユニリーフさんで行うため、以前に同じ本を届けていないかなどチェックが欠かせなく、パソコンに入った貸し出しの記録を参考にされていました。基本的には、言葉の本、科学の本、昔話、季節の本を組み合わせているそうです。往きのバスを間違えて約束の時間に大幅に遅れてしまったのですが、温かく迎えていただき、代表の山下さんにユニバーサル絵本のことや貸し出し作業のことなど、詳しく教えていただきました。本棚いっぱい約1200冊のユニバーサル絵本に圧倒されました。

4月6日は二人（星・杉崎）で、5月8日は三人（黒瀬・松本・杉崎）で、月に一度の貸し出し作業におじゃまし、選書のお手伝いをさせていただきました。年齢や点字がどのくらい読めるかなどの情報が入った表をもとに、絵本を選んでいきます。たくさんの絵本の中から、利用者のことを想像しながら本を選ぶ楽しさと責任を感じました。

14年にわたり、ユニバーサル絵本を作製し、大変な貸し出し作業を続けていらっしゃるユニリーフさんに心から敬意を表します。貸し出し作業の人手が足りないとのことでしたので、ひこうさんが少しでもお役に立てればいいなと思いました。

（杉崎）

☆ユニリーフさんでは、現在「建長寺さわれるブロンズ模型プロジェクト」を進めていて、皆さまのご支援を求めています。詳細はユニリーフさんのHP（<https://unileaf.org>）やチラシをご参照ください。

ボランティア連絡協議会委員会報告

(4月20日(木) 於：福祉センター)

4月20日、今年度最初の委員会が開催されました。5月の総会に向けて2022年度の活動報告、決算報告及び今年度の活動計画案、予算案を審議しました。総会は会場の都合で今回も書面での承認となります。その結果62団体中48団体からの承認を得ることができ、5月11日に報告の葉書を郵送しました。

議事終了後、現在TOTOMOに取り組んでいる連続講座「これからの鎌倉の図書館にのぞむこと」のお知らせをしました。口頭のみでの告知でしたが、朗読録音奉仕会の新代表の方から詳細について質問がありました。図書館の障害者サービスとして欠かせない活動をされている方々ですので、これから益々連携を深めていただきたい、とお願いしました。その一方で、日頃図書館にかかわっていない方々にももっと興味をもっていただけるように工夫しなければと思いました。その他、旧鎌倉図書館への取り組みを質問して下さった方もありました。委員会が貴重な交流の場となっていることを感じます。

(黒瀬)

協働事業推進部会報告

(4月24日(月) 於：NPOセンター鎌倉)

協働事業は昨年度から「つながる鎌倉エール事業」に代わりました。従来の市と市民団体との協働事業は協働コース、設立3年以内の団体を助成するスタートアップコースの2つがあります。

4月24日月曜日にNPOセンター主催の市民活動講座「エール事業に応募しよう！」が開催されました。参加したのはエール事業への応募を検討している方々と鎌倉市地域のつながり課職員やNPOセンター事務局、協働事業推進部会員等を含めて30名ほどでした。この講座の趣旨やエール事業についての説明の後、昨年度エール事業に採択された市民団体(スタートアップコースから鎌倉竹部と西鎌みんなの家、協働コースからmama care 湘南とまるまーる)の方々に体験談を伺いました。

エール事業に応募することで自分たちの活動を見直し整理するきっかけとなった、団体やその活動の認知度が上がった、より多くの人に出会うことができサービスの幅を広げられた、など協働することの意義を感じられました。申請やプレゼンに際して工夫した点は、専門用語を多用しないようにした、事業実現の可能性を強調した、審査員に実感してもらえるように具体例を用意した、事前に関係各所に相談した、など大変参考になるお話ばかりでした。

最後は個別相談の時間でしたが、文庫活動を計画している方々とお話することができました。この場だけでなく、今後も話し合いの場を持って交流したいと思っています。

(黒瀬)

TOTOMO活動日誌 (3/30~5/31)

4/2	NPOセンター全員会議出席	4/29, 5/3	「公共施設の“あさって”」参加
4/5	間島弟彦・愛子夫妻旌徳の会	5/8	ユニリーフお手伝い
4/6	ユニリーフお手伝い	5/10	市役所出前講座
4/7, 5/23	協働事業推進部会出席	5/11	ボランティア連絡協議会書面総会
4/10	連続講座第1回森下芳則氏講演会	5/18	おはなしひろくせん勉強会
4/13, 5/11	ボランティア連絡協議会役員会出席	5/20	NPOセンター第24回総会出席
4/15	「公共施設の“あさって”」参加	5/28	連続講座第3回西河内靖泰氏講演会
4/18	連続講座第2回太田剛氏講演会	5/29	図友連総会とシンポジウム出席
4/20	おはなしひろくせん勉強会	5/30, 31	図友連要請活動参加
4/20	ボランティア連絡協議会委員会出席		
4/24	NPOセンター主催市民活動講座参加		
4/27	F☆L実行委員会出席		
4/28	読書会		

ロビー活動 随時

定例会8回 (4/5, 12, 19, 26, 5/10, 17, 24, 31)



COMING NEXT ! 事務局からのお知らせ

図書館とともだち・鎌倉 25 周年記念事業が始まりました。
この機会に改めて、これからの図書館について学び考えてみませんか。

TOTOMO25 周年記念事業 これからの鎌倉の図書館にのぞむこと

～ 公共図書館の存在意義を確認し、共有し、これからの図書館を構想する ～

第 4 回 講師：渡邊浩平さん（鎌倉市中央図書館総務係長）

日時：6 月 25 日（日）13 時～16 時 場所：鎌倉市中央図書館多目的室
図書館の施設整備に関連して昨年 11 月から行われた 6 施設への視察について
お話ししていただきます。お話しは 1 時間半ほど、終了後図書館見学を行います。

第 5 回 講師：吉田右子さん（筑波大学図書館メディア系教授）

日時：7 月 9 日（日）13 時～16 時 場所：鎌倉市中央図書館多目的室
北ヨーロッパにおける公共図書館の意義と役割についてお話ししていただきます。

※申し込み方法などの詳細は、添付のチラシをご参照ください。

お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。

おはなしひろくせん勉強会

日 時：6 月 15 日（木）10 時～12 時 場 所：福祉センターにて

テーマ：「雨かんむりの漢字から連想するもの」雲・霧・雫・雷・露など、雨かんむりの
漢字から連想するものをテーマに絵本や紙芝居をご紹介します。

お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

読 書 会

日 時：6 月 23 日（金）11 時～12 時半 場 所：NPO センター鎌倉にて

テーマ本：出口治明著『一気読み世界史』（日経 B P）と青山美智子著『お探し物は図書室
まで』（ポプラ文庫）です。水分補給のための飲み物はご持参ください。

お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX 0467-41-4956）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時：6 月 7 日（水）13 時半～16 時半 場 所：福祉センターにて

お問い合わせは、鈴木（TEL 090-4728-5242）まで。

★図書館友の会全国連絡会

2023 年 3 月 31 日、図友連では、冊子『ツタヤ図書館の広がりをはなにもたらしたか？市民がふりかえる 10 年』
を発行しました。この冊子は、鎌倉市図書館で借りることができます。

また、5 月 29 日、2023 年度（第 17 回）会員総会とシンポジウム、5 月 30 日～31 日、国への要請行動を行いました。
詳細は、次号で報告します。お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。

編集後記 * * * * *

☆昨年 NPO フェスティバルで、ユニバーサル絵本のユニリーフさんとご縁ができました。
これからも人と人とのつながりを大切に活動できればと思います。（A.S）

☆4 月 10 日から、連続講座が始まりました。図書館を応援する活動を始めて 25 周年を迎える
今年。今までの活動の総括と今後に向けての指針となるもの、そしてこれからの図書館にの
ぞむことがより明確になっていく、そんな講座になっていくといいなと思っています。皆様
のご参加をお待ちしています。（M.S）



題字・巻末カット：小島寅雄

2023 年 5 月 31 日発行

図書館とともだち・鎌倉（代表：水岡やす子） 編集：阿曾・黒瀬・杉崎・齊木

事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下 1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545

H P : <http://totomo.sakura.ne.jp> E-mail: toshokantomodachi@gmail.com

